

# 赤かび病防除と実肥施用について ～「ふくさやか」「農林61号」の防除～

## 1 生育状況と赤かび病防除

今年産小麦は播種後、平年よりも気温が高く推移したことから、生育は早く進んでいます。また、向こう1か月の気温は、平年より高いと予想されており、出穂期・開花期は昨年よりも早くなることが予想されます。

赤かび病の防除効果を高めるため、遅れずに適期（開花始め～開花期）に防除を実施しましょう。

### ◎赤かび病の防除時期の目安

品種	出穂期予想	1回目 開花始め～開花期	2回目
ふくさやか	3月31日頃～	4月11日頃～	注意報や多発が 予想される場合
農林61号	4月8日頃～	4月16日頃～	

### <注意点>

- ・開花した時が最も赤かび病にかかりやすいため、開花期（ほ場内の穂の40～50%が開花）の薬剤散布により高い効果を期待できます。
- ・播種時期や今後の気温の経過により出穂期から開花期までの日数が変わることから、ほ場の生育状況を確認し防除を実施してください。
- ・薬剤散布後に気温が高く、曇雨天が続く場合は追加防除が必要となりますので、関係機関等からの情報にご注意ください。

## 2 実肥施用について

実肥は収量増加やタンパク質含有率向上に効果があります。実需者の求める品質評価基準を満たすため、実肥を施用しましょう。なお、基肥-穂肥体系では実肥は不要です。

品種	窒素施用量(N kg/10a)	施用時期と施用量の考え方
「農林61号」	3～4	・出穂10日後に施用する。 ・穂数が少ない(300本/m <sup>2</sup> 以下)場合は、2～3Nkg/10aに減らす。
「ふくさやか」	4	